



2023年2月1日

各 位

会 社 名 株式会社アイロムグループ
代表者名 代表取締役社長 森 豊隆
(コード番号 2372 東証プライム)
問合せ先
役 職 取締役 CEOオフィスセンター担当
氏 名 小島 修一
電 話 03-3264-3148

当社子会社による田辺三菱製薬株式会社との iPS 細胞作製技術に関するライセンス契約締結のお知らせ

当社の100%子会社である株式会社IDファーマ（以下、「IDファーマ」という）は、同社が所有するCytoTune®-iPS（※1）を用いて田辺三菱製薬株式会社（以下、「田辺三菱製薬」という）がiPS細胞（※2）を作製し、そのiPS細胞由来の分化細胞を創薬スクリーニング等に使用することを許諾する契約を、本日、締結したことを下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 契約の概要

IDファーマは田辺三菱製薬に対して、同社がCytoTune®-iPSの技術を用いてiPS細胞を作製すること、本技術により得られたiPS細胞を分化させること、それらにより得られたiPS細胞や分化細胞を創薬スクリーニング等に用いることについて、日本を対象とする非独占的な権利を許諾しました。これによりIDファーマは田辺三菱製薬から年間使用料を受け取ります。

2. 契約の意義

IDファーマのiPS細胞作製技術は細胞の染色体を傷つけることなく、かつ効率よくiPS細胞が作製できるため、様々な疾患の患者由来の血液や組織から、多種多様なiPS細胞および分化細胞を作製するのに最適であると考えられています。

このような患者由来iPS細胞から作製した分化細胞を用いた創薬スクリーニングは、研究段階においてヒトに対する効果や安全性等を予測できるため、迅速な医薬品の開発に繋がるものと期待されます。

IDファーマは、本契約のようにCytoTune®-iPSを活用したiPS細胞等の作製とその利用を許諾する契約の締結を推進しており、そのような取り組みにより基盤技術であるセンダイウイルスベクターを用いた新たな事業機会を創出できるものと考えております。

3. 技術実施許諾先について

技術実施許諾先の概要は次のとおりです。

会社名	田辺三菱製薬株式会社
本社所在地	大阪府大阪市中央区道修町3-2-10 (東京本社所在地：東京都千代田区丸の内1-1-1)

創業	1678年
資本金	500億円
ウェブサイト	https://www.mt-pharma.co.jp/

三菱ケミカルグループ（以下、「MCG」という）のファーマ部門である田辺三菱製薬は、医療用医薬品事業を中心とする製薬企業として、最も歴史のある老舗企業の一つです。MCGは経営方針「Forging the future 未来を拓く」の中で、ヘルスケアを最重要戦略市場に位置付けています。田辺三菱製薬は、「病と向き合うすべての人に、希望ある選択肢を。」をMISSIONとし、これを実現するため、中枢神経・免疫炎症領域を中心に、有効性・安全性が高い患者層を見出し、治療満足度の高い薬剤をお届けする「プレジジョンメディシン」に取り組んでいます。また、予防・未病、重症化予防、予後にも目を向け、治療薬を起点に患者さんの困りごとに応える「アラウンドピルソリューション」を展開しています。

4. 今後の見通し

本件による2023年3月期の業績への影響は軽微であります。新たな事業機会を創出できるものと考えており、中長期的な当社の業績に寄与するものと期待しています。

※1. iPS細胞作製キット CytoTune®-iPS

CytoTune®-iPSは、京都大学の山中伸弥教授のiPS細胞作製技術と、IDファーマのセンダイウイルスベクター技術を融合させて開発したiPS細胞誘導キットであり、本キットを用いることにより、一回のベクターの使用で線維芽細胞などの体細胞からiPS細胞を効率よく誘導することができます。特にヒトに大きな苦痛を与えずに採取できる末梢血・血液細胞からの効率的な誘導が可能であり、他の方法と比べて優れた性能を有しています。さらに本キットを用いて作製されたiPS細胞は、元の細胞の染色体上の遺伝子配列を無傷にそのまま維持しており、またiPS細胞誘導に用いたベクターが細胞から素早く消失されるよう改良されているため、国内外の研究者から高い評価を受けております。

※2. iPS細胞

人工多能性幹細胞（induced pluripotent stem cell）のことであり、体細胞に特定の遺伝子を導入することにより樹立される、ヒト等のあらゆる組織、細胞に分化する能力を持つ幹細胞のことです。

以上